

土地利用計画図

土地の所在

高松市香川町大野字小箱
2530-2の一部、2531、2533-4
及び地先農道・水路

開発許可
年月日

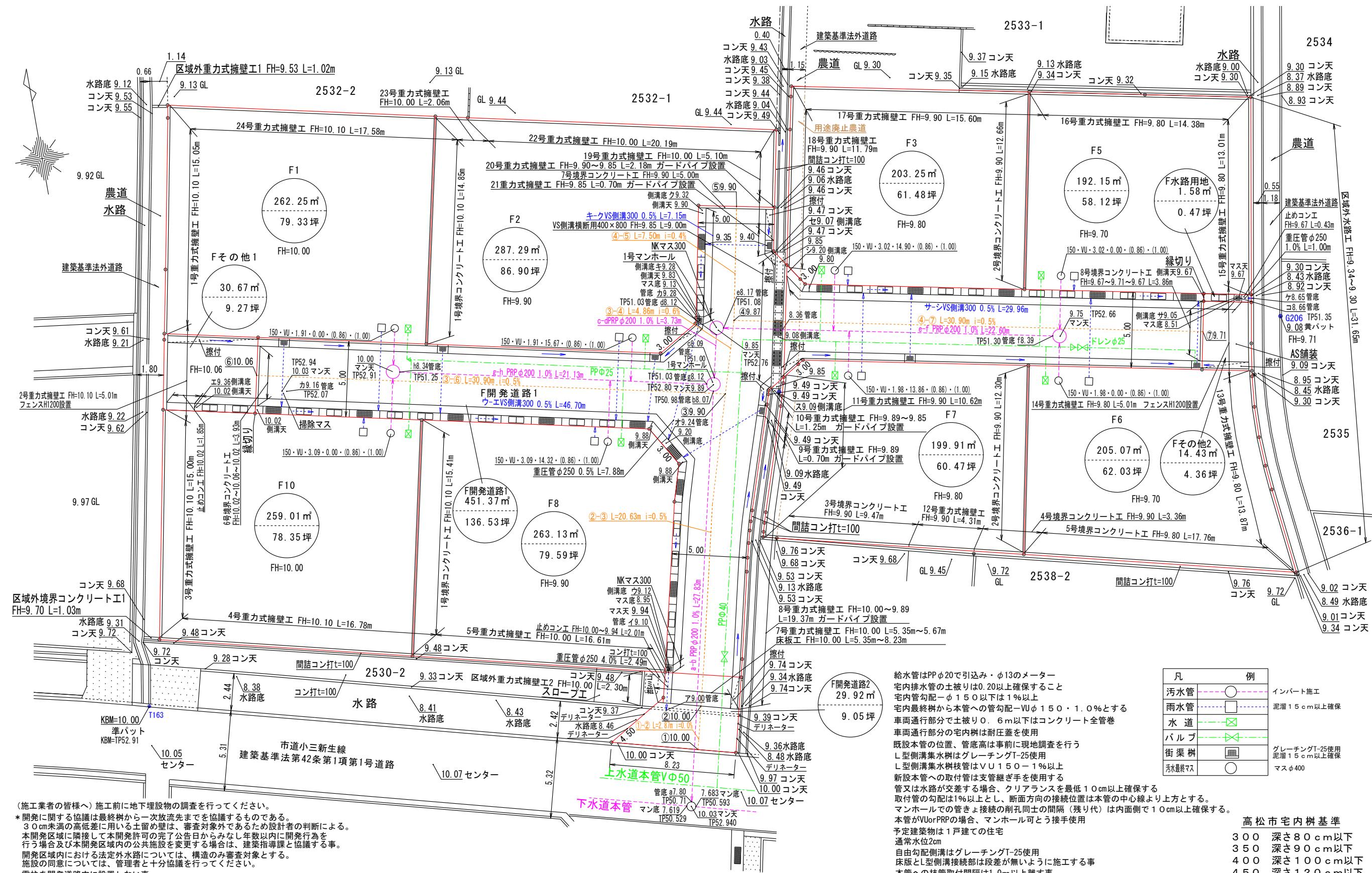
第 令和 7 年 2 月 28 日
2530-130 号

申請者

代表取締役 増元 竜彦
ロータリーハウス(株)

作成者
住所・氏名

行政書士 石井 正志
高松市春日町1643番地9



(施工業者の皆様へ) 施工前に地下埋設物の調査を行ってください。
* 開発に関する協議は最終樹から一次放流先までを協議するものである。
30cm未満の高低差に用いる土留め壁は、審査対象外であるため設計者の判断による。
本開発区域に隣接して本開発許可の完了公告日からみなし年数以内に開発行為を行う場合及び本開発区域内の公共施設を変更する場合は、建築指導課と協議する事。
開発区域内における法定外水路については、構造のみ審査対象とする。
施設の同意については、管理者と十分協議を行ってください。
電柱を開発道路内に設置しない事。

給水管はPPφ20で引込み・φ13のメーター
宅内排水管の土被りは0.20以上確保すること
宅内管勾配φ150以下は1%以上
宅内最終樹から本管への管勾配φ150・1.0%とする
車両通行部分で土被り0.6m以下はコンクリート全管巻
車両通行部分の宅内樹は耐圧蓋を使用
既設本管の位置、管底高は事前に現地調査を行う
L型側溝集水樹はグレーチングT-25使用
L型側溝集水樹枝管はφ150・1%以上
新設本管への取付管は支管継ぎ手を使用する
管又は水路が交差する場合、クリアランスを最低10cm以上確保する
取付管の勾配1%以上とし、断面方向の接続位置は本管の中心線より上方とする。
マンホールでの管きよ接続の削孔同士の間隔(残り代)は内面側で10cm以上確保する。
本管がφ100VRPPの場合、マンホール可とう接手使用
予定建築物は1戸建ての住宅
通常水位2cm
自由勾配側溝はグレーチングT-25使用
床版とL型側溝接続部は段差が無いように施工する事
本管への枝管取付間隔は1.0m以上離す事

凡	例	
汚水管		インバート施工
雨水管		泥溜15cm以上確保
水道		
バルブ		グレーチングT-25使用 泥溜15cm以上確保
街渠樹		
汚水最終マス		マスφ400

高松市宅内樹基準	
300	深さ80cm以下
350	深さ90cm以下
400	深さ100cm以下
450	深さ120cm以下

縮尺 1/250